

春はあけぼの・・・桜～シラカシ林を歩く

日時:2025年3月22日(土) 天候:晴れ 17000歩 約12km

集合:JR南武線津田山駅 10時30分

コース:津田山駅～二ヶ領用水・円筒分水～市営緑ヶ丘霊園～県立東高根森林公園(プラチナ)～ふじやま遺跡
～妙楽寺～川崎市緑化センター～南武線宿河原駅(解散)

参加者:平嶋(L) SL=熊坂 熊島 奥村

佐藤 勅使河原 常盤 吉留 平石 仲 大平 高橋文 平野 小林 河野 山内 井内 小島 福土 市村
丹後 桑原 澤 山田 滝川 脇坂 松野 飯田 望月 篠 高橋吉 加納 川合 芦田 高津佐 亀田 工藤
唐 沼津 西川 尾形 小見山 白田 稲葉 ユズキ /一般=今泉 計46名

この日は元会員で監査役だった青松秀男さんのお墓参りを兼ねてのウォーク。緑ヶ丘霊園では在りし日の青松さんを偲んで“青松組”を中心に墓前で焼香をしましたが、これだけ大勢が来てくれて天国の青松さんもさぞ喜んでいることでしょう。

朝から気温も高くまるで初夏の陽気。そのせいか参加者も例会を上回るような46名となり、リーダー&SLも大変だったようです。スポットの一つ「円筒分水」はイベントが開催されていて、じっくりと見学することが出来ませんでした。国の登録有形文化財としての雰囲気は感じて貰えたと思います。妙楽寺はあじさい寺として知られ、6月には寺の境内全体があじさいで彩られ多くの人で賑わいます。緑化センターではヒスイカズラが咲いていて、その神秘的な色が皆さんを魅了していました。

帰り道の二ヶ領用水沿いの桜はまだ少し早いようでしたが、天候にも恵まれた絶好のウォーク日和でした。

<フォトレポート 小島>



<初夏並みの気温で日差しが眩しい東高根森林公園にて。バックに桜でも咲いていれば良かったが・・・>



津田山駅改札前でL&SLの戦略会議？



階段下で日向ぼっこ。朝から日差しが暖かい。



津田山第二公園でストレッチ。(オウムではありません！)



安定のリーダー平嶋さんからコース説明。



この辺りは高台で東京が望める。



久地神社に立ち寄り小休憩。



久地不動へ続く見事な竹林。



■久地円筒分水■

円筒分水は河川の水を田畑に均等に分配する目的で、第一号は大正3年に農業技術者の可知貫一が発明し、岐阜県小泉村に建造された。日本最大級のもは岩手県奥州市の徳水園にあり、この日本独自の技術は世界にも紹介された。

久地円筒分水は平賀栄治氏設計によるもので、昭和16年に建造された。初期のものは川の傾斜を利用したものだったが、ここでは逆サイフォンの原理で二ヶ領用水が平瀬川の下を潜り噴出する構造となっている。平成10年には川崎市初の国の登録有形文化財に指定された。



この日は「円筒分水スプリングフェスタ」が開催されていて、ゆっくりと見学することが出来なかった。



円筒分水を出て緑ヶ丘霊園に向かいます。

久地の里公園付近の桜。早咲きの桜が咲いていました。



市営緑ヶ丘霊園に到着。園内は広いので青松さんのお墓まではここから結構歩きます。



<青松さんの思い出>

初めて会った時には一見怖そうな印象でしたが、本当は気配りの出来る心優しい人でした。(2023年1月没) エピソードは数多くありますが、何と云っても“タマゴ”でしょうか。元気な頃ですが、自宅で飼っているニワトリのタマゴを茹でて、参加者の人数分を持参しランチタイムに皆に配ってくれたものです。

タマゴとは言え、これが数十個となると結構重たいものですが、それを自宅からわざわざウオークに持参されたわけで、中には「今日はタマゴ無いの」と不届きな者も現れる始末。これを“青松タマゴ”と呼んだものです。

ある時青松さんリーダーで地元を歩いた折には、普段は入れない駅前の高層ビルにある屋上ヘリポートに上がり、360度の展望を楽しんだものですが、これは当時青松さんが川崎商店会の代表を務めていたそのお蔭でした。

日時は忘れましたが、青松さん知り合いのカラオケパブで皆でカラオケに興じたこともありました。その折に青松夫人も同席していて、私が歌っている時にグラス片手に舞台上がって来て、二人で歌いながら踊ったこともありましたが、青松さん本人は“ヤキモチ”も焼かず、笑顔で見つめていたのが懐かしく思い出されます。

また青松さんは高校の同級生を“強引に”クラブに入会させ、通称“青松組”のボスを自認、歩くのも一緒、ランチも一緒、そしてアフターも一緒と、傍から見ても羨ましい一心同体の統一の取れた“組織”でした。しかし青松さんの逝去により組は自然解散となりましたが、この青松組はクラブの歴史に残る存在だったと言えます。

その他上げれば切りがありませんが、同じ川崎在住の一人としていつまでも心に残るクラブの先輩でした。



有志で墓を掃除。青松さんも喜んでいることでしょう。



青松組の客分(?) 飯田さんも手を合わせる。

※今日の参加者の1/3くらいは青松さんを知らない会員、あとの2/3は知りすぎるほど知った会員。

あまりの大勢での墓参に、天国の青松さんもビックリして現世に戻ってくるのでは?

これまでも現役で逝去された会員はいますが、これほど皆から慕われた人はいなかったと思われます。



組長に可愛がられた青松組若頭の市村さん。



墓参後ランチ。ここから東高根森林公園へ向かう。



東高根森林公園に入ります。整備された観察路。



県立公園だけあって園内はゴミひとつありません。



園内の桜はまだ早いようですが、その代わりに「ヒュウガミズキ」が満開でした！



園内は水辺も多く憩いの場所になっています。



この公園は神奈川の景勝50選に選ばれている。



シラカシ林への上り道。



古代芝生広場に到着。周囲がシラカシ。



シラカシ林を一周の御一行。昔の「Gメン75」のタイトルバックを思い出させる。でもこれじゃ爺メン？

※この下には、弥生時代から古墳時代の集落跡が今でも眠っており、発掘調査では62軒の住居跡見つかって県の史跡に指定された。



ふじやま遺跡公園。弥生時代の集落跡です。ここからはスカイツリーも見渡せる。当時は景色が良かった？



天台宗長尾山妙楽寺に入ります。



六地藏がお出迎え。静かな雰囲気 of the temple is quiet and peaceful.



川崎市内でも知られたあじさい寺。6月中旬には全山あじさいで埋め尽くされる。

※研究によれば、妙楽寺は中世初期に存在し、『吾妻鏡(あづまかがみ)』に登場する源家累代の祈祷所(きとうじょ)であった威光寺(いこうじ)との関連が指摘され、注目をあつめている。源頼朝は、鎌倉幕府草創期に弟の全成(ぜんじょう)を威光寺院主として派遣し、所領を安堵(あんど)するなど同寺を厚く保護している。これは、幕府の所在する鎌倉の外郭(がいかく)の境界線として、多摩川とその右岸丘陵の軍事的位置を重視したためと考えられる。

しかし、幕府の滅亡によって、威光寺も次第に衰微したらしく、応永12(1405)年8月の梵鐘鑄造(ぼんしょうちゅうぞう)の勸進(かんじん)に関する記録を最後として、史上から姿を消し現存しない。妙楽寺は威光寺の一坊だったか。



妙楽寺を出て緑化センターに向かう道筋の山桜。



こちらは農家の庭先に咲くコブシか？



川崎市緑化センターに到着。



ここで早めのクールダウン。



二ヶ領用水を渡り園内に。



下見の時には咲いていなかったが、この日は神秘的な色合いで皆の目を楽しませてくれたヒスイカズラ。



トロピカルとは盛すぎでは？



埴輪がいるフォトスポット。



影も長くなって・・・さあ出発。



ニヶ領用水沿いの桜はまだ蕾だった。



カルガモも“坐禅”を組んで瞑想中？



道行く人も振り返る“宿河原銀座”を歩く御一行。



JR 宿河原駅に到着。皆さんお疲れ様でした！

END